

## 江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0202 NO85

校長 伊波喜一

淡雪の 地に降りつるや 水となり 立春の日を 天は感じて

今年2回目の雪が降りました。今回は淡雪で、降り積もる様子もなさそうなので、ほっとしています。水木しげるといえば、妖怪物の漫画で知られています。代表作「ゲゲゲの鬼太郎」は太平洋戦争から復員後の20年目に、爆発的にヒットしました。筆者も少年時代、夢中で読みました。登場する妖怪たちがユーモラスなのは、水木の大らかな性格にもよることながら、南方ののんびりした生活が好きだということとも、大いに関係がありそうです。その水木は戦争で左腕を無くしても、絶望しませんでした。なぜ? 「苦しみ慣れしているから」とのこと。曰く「楽ばかりしていると、もっと苦しいことが待っていたりする。その時に、耐えられなくなる。だから、苦しむことから逃げちゃいけない。苦しいことに慣れていくことが大事」と。人には誰でも、ここ一番の頑張りどころがあります。その時に、苦楽のどちらを選択するかによって、後々の人生に影響を与えます。苦楽ともに思い合わせて一歩でも前へと進むところに、自身の殻を破る秘訣があるのではないのでしょうか。